

令和4年度 大社高等学校 学校評価

※生徒・保護者・教職員評価の「評価」欄の基準は肯定的評価の％:A:80%以上 B:65～79% C:50～64% D:50%未満、全体の「総合評価」欄は学校関係者評価委員会の意見等を考慮した総合評価

総合評価	学校関係者評価委員会での意見等	改善策	自己評価	評価	教職員評価			保護者評価			生徒評価			カリキュラムポリシー	担当			
					評価	青	評	評価	青	評	評価	青	評					
《教育目標》 郷土に思いをいたし、こころ豊かで、たくましく生き抜く実践力のある人材の育成	生徒の当事者意識と他者と協働する力を育む活動の推進	(1)開かれた学校づくり (2)ICTの有効活用	総務 1 13	積極的な情報発信による、開かれた学校づくりの推進	3.4	94	A	3.2	93	A	3.3	100	A	「さくら連絡網」とそのアンケート機能の活用により保護者に確実に伝えたい情報を伝え、回答が求められる事項について高い回収率を実現できた。また、総会・研修会のZOOM配信により、来校できない保護者への対応を行った。	今後も行事等は対面とZOOM配信のハイブリッド方式を執っていくが、配信へのアクセスは恐らく増加し、一定の需要を形成していくと考える。「さくら」ZOOMの活用について、新規提案やアイデアを受け入れ、拡張していく。	コロナ禍で、ボランティア募集が少なく、評価も低くなっているが、3月に募集したボランティアでは、大社高校生が多く参加してくれた。今後は期待できる。	A	
			生徒指導 3 14	ICTスタッフとの連携	3.5	96	A	3.4	95	A	3.2	86	A	「さくら連絡網」とZOOM配信について、ICTスタッフに多大な協力をいただいた。しかし、ICTスタッフはそれぞれの所属分掌でこうした関連の重要な仕事を担っているため、どうしても所属分掌に縛られ分掌を越境した仕事を頼みづらいところがある。	ICTスタッフへの依存が過度にならないよう、スタッフ以外のメンバーも自分のスキル向上を意識しながら業務を遂行する。特に特定の人間に仕事が集中しないようにすることが、スタッフ制を継続していくには必要である。	コロナ禍における創意工夫ができるのではないかと。	A	
			生徒指導 10	ボランティア活動の推進							2.7	63	C	C	外部からの依頼で実施されたボランティアの参加者希望者は16名で、多くの参加があったとは言えない状況である。	ボランティア募集を、Classroom等も使い、積極的に行う。	「問い」を生むための課題提示をしてほしい。	C
			体育 22	他の人や地域に意識を向ける機会の設定							3.0	87	A	A	大学訪問等外部との関わりが増えたことで「地域」を意識する機会が増えた。また、各専攻科目の中で、外部の方と関わる機会も多かった。	外部の方とのつながりの中で課題を発見したり、刺激を受けたりしながら、よい影響を上げていきたい。	地域を知らない生徒が多い。外部との連携、教員の負担減のためにも、コーディネーターの活用を検討してほしい。	A
			寮務 19	寮生のライフスキルの向上							3.2	91	A	A	欠食表の管理、掃除・学習への取りかかり、脱衣場・風呂場の整理整頓等に課題があったが、年度後半より寮生自ら考えるように仕向け、効果が出始めている。	タブレットの使用、外部舎監の導入、炊事員の確保などの課題解決に向け、寮生同士のチェック機能、関わる大人との信頼関係の構築に努める。	スポーツ総合演習はぜひ大学としても協力したい。	A
	(3)総合的な探究の時間の充実	教育研究 1年 16 7	「総合的な探究の時間」「スポーツ総合演習」の効果的な実施	3.3	89	A	2.9	76	B					探究活動に必要な基礎を身につけ、「問い」を自ら設定させることができた。	「問い」をたてる課題設定の時期を改善し、総合的な視点で捉えられるように工夫する。		A	
		教育研究 1年 16 7	「北九州研修旅行」の効果的な実施	3.6	94	A	3.4	100	A	2.8	70	B	A	北九州市への研修旅行を初めて実施し、2年生全員が参加して、総合的な探究の時間とリンクする形でSDGsについての理解を深めることができた。一方、新型コロナ対策の中での実施となり、見通しが立ちにくく、発熱者などの対応について非常に大きな負担があった。	実施を前提に1学期中には研修計画を策定し、生徒の意見や希望を反映しながら、研修先を確定する。新型コロナ感染症防止対策については、新しい基準や方針が出される予定であるが、十分な人員の配置や経費などの要請を行い支援体制を強化する。			
		教育研究 3年 16 7	「総合的な探究の時間」の効果的な実施	3.3	87	A	3.2	95	A					活動の中に小論文、志望理由作成などがあったので、概ね評価が高かったと思われる。成人年齢の引き下げにより、契約や選挙といった社会人となる心得を伝えることができた。	1学期は内容が盛りだくさんで、やや消化不良であった。学習活動の振り返りと志望理由にもう少し時間が割けるとよい。将来の在り方を見つめつつ課題探究のまとめを実施し、探究のサイクルを意識させる。			
		教育研究 18	教員研修の充実							2.9	79	B	B	悉皆での研修を複数回実施し、語り合う場を設定できた。時期と回数と実施法の検討が必要。	総合的な探究の時間の研修会を時期を早め、複数回実施する。研究・公開授業の実施方法も改善する。			
	(1)主体的な学習態度の育成 (2)進路意識の高揚	教務 1年 24 3	主体的に学ぶ態度の育成	3.3	90	A	2.8	74	B	2.9	86	A	A	各教科担当が授業改善に取り組むことができたが、タブレットの活用は暗中模索の最中である。	Classroomをさらに活用し、毎日見る習慣を付けさせる。	授業では、目標の明示と振り返りを大切にしてほしい。	A	
		教務 2年 26 3	主体的に学ぶ態度の育成	3.4	92	A	3.1	90	A	2.9	85	A	A	部活動に加え総探や研修旅行など生徒の意欲や主体性につながる活動ができた。総探や研修旅行の目標について生徒・教員間の共有が不十分であったことや、計画や準備段階でもっと生徒の自主的・主体的な取り組みがあった方がよかった。	総探の目標について担当者(今年度は、副担任)だけでなく担任も含め学年部全体で共有し、目標や取り組みについて、生徒の意見を反映させる。研修旅行の計画について、学年部全体で役割分担を行い、研修先の選択に生徒の意見を反映する。	ICTの活用や地域との連携を進めてほしい	A	
		教務 3年 3	主体的に学ぶ態度の育成	3.2	86	A	3.1	85	A				A	受験直前期は皆主体的に取り組んだと感じている。一方で、受験以外あるいは、終了後の取り組みがおろそかになりがちであった。	受験期には皆実力を付けていた。力は必ず付くという見通しを持たせ、粘り強く取り組ませるとよい。	教科学力だけでなく、新聞の活用などを行って、小論文の力を付けさせてほしい。	A	
		進路指導 1年 11 5	進路意識の高揚	3.2	90	A	3.0	88	A				A	調査や進路学習等の機会はあるが、その点と点を生徒が主体的かつ有機的に結びつけられるような意識づけが必要。	総探の個人課題テーマや進路学習と関係づけたり、卒業生の活用等で学びたいこと、取り組みたいことが生徒自身から生まれるような具体的な「しかけ」を行う。			
進路指導 2年 11 5		進路意識の高揚	3.5	96	A	3.0	83	A				A	意識はかなり高められてきたと感じられる。進路学習のHR等の取り組みについて保護者に伝わりにくい状況があった。	意識を具体的な活動・行動に移せるような働きかけが必要。各種「通信」や「便り」あるいはホームページなどを活用し、具他的な進路学習などへの取り組みを保護者に伝え、理解してもらえよう工夫する。				
進路指導 3年 12 28		進路志望実現への支援	3.2	85	A	3.1	89	A	3.2	92	A	A	受験指導は担任の面接、全教職員による個別指導の体制は確立していた。また進路検討会時の指導方針の提言や目標合わせ、情報共有も有効であった。	一部ではあるが、4志望理由が曖昧な者がいた。活動歴を把握し、それを生かして早期に話を詰め、志望理由書作成等を行えるとよい。				
体育 20		専門科目へのサポート							3.3	96	A	A	スポーツ概論や専攻実技で、専門科目と専攻科目とのつながりについて伝えることができた。また、スポーツ総合演習と専攻科目を関連付けながら競技力向上努めた。	専門科目で得た知識と、スポーツ総合演習などを通して得た探求の力を競技力向上につなげたい。				
(1)授業改善 (2)ICTの活用 (3)適切な学習評価	教務 5 1	学び合いを取り入れた授業の推進	3.3	91	A	3.1	89	A	2.5	55	C	B	授業評価アンケートが実施できず、授業改善につながる取り組みができなかった。	授業評価アンケートの項目や実施方法の検討、学習時間調査の目的、時期、実施方法を検討する。	授業評価アンケートの実施方法について、再検討をお願いしたい。	B		
	教務 4	ICT機器の活用							2.9	71	B	B	少しずつ活用は広がっているが、各教科任せになり、教務としての働きかけが不足した。	ICTスタッフと連携し、活用方法を積極的に発信し、研修の機会を確保する。	アンケート結果のフィードバックをお願いしたい	B		
	6	適正な評価							2.9	80	A	A	評価方法についての情報提供や研修の機会を確保することはできた。	各教科と連携し、生徒が主体的に学習に取り組めるような評価のあり方を検討する。		A		
(1)挑戦への支援 (2)部活動の推進 (3)安心・安全な学校づくり	進路指導 13	3年間を見通したキャリア教育・進路指導							3.0	85	A	A	今年度実施の企画はぜひ来年度以降もぜひ継続実施したい。 ・教員間の共通認識・連携が不十分。	引き続き教育研究部と連携しつつ、今年度の振り返りと来年度計画の早期立案を行う。そのためには十分な協議時間の確保が必要。	多様性を教育の基本としてほしい。	A		
	教育研究 17 6	読書・図書館活動の充実	3.2	83	A	3.0	84	A	3.4	97	A	A	情報発信や展示の工夫により、図書館に興味を持ってもらえた。	利用促進のため、PCで図書館の授業での活用状況を把握できるように検討する。	国民スポーツ大会では、少年部門への期待が大きい。大学との連携や県内アスリートの連携を行って、競技力の向上に取り組んでほしい。	A		
	生徒指導 7 8	部活動の推進	3.5	94	A	3.1	85	A	3.3	97	A	A	全国大会入賞や県総体学校対抗総合2位など好結果を残すことができた。また、結果だけでなく、人間関係づくりや、人格形成に活かすことができた。	生徒一人一人の自己実現の場になるよう、教員による支援体制を整える。	地域指導者の確保のために、体育科卒業生の進路先の確保を大学・市と連携してほしい。	A		
	生徒指導 8 11	いじめをしない、させない体制づくり	3.2	83	A	3.1	91	A	3.2	95	A	A	いじめ・学校生活に関するアンケートを実施し、早期に対応することができた。	担任、部顧問や学年会等との連携を深める。		A		
	生徒指導 9 10	交通マナーの向上	3.3	88	A	2.9	78	B	3.2	95	A	A	定期的な交通安全指導を行い、生徒への注意喚起を呼びかけたが、一部交通マナーを守れない生徒もいた。	ホームページやClassroomなどを効果的に活用し、生徒や保護者に交通安全を呼びかける。		A		
	生徒指導 1年 23 9	人権教育の推進	3.1	83	A	2.9	80	A	3.1	97	A	A	生徒面談を学期ごとに2回程度行い、いじめ・学校生活アンケート等を通じて得られた情報に対して、聞き取りから状況把握等の対応ができた。	面談・アンケート等の情報や教員間の情報共有を密にして、迅速な対応に努める。		A		
	生徒指導 2年 25 9	人権教育の推進	3.5	95	A	3.1	88	A	3.1	100	A	A	部活動、総合的な探究の時間、研修旅行等主体性につながる活動をする場面を多く設定することができた。	生徒・教員間の情報共有に努め、準備段階での生徒の自主的・主体的な取り組みを増やす。		A		
	生徒指導 3年 27 9	人権教育の推進	3.3	91	A	3.1	92	A	3.1	94	A	A	全体の中でどのように振る舞えばよいかということは分かっていた。やや空気を読みすぎる面があり、人間関係の構築に苦勞する者もいた。	行事などで共働させる場面を多く作るとよい。		A		
	保健 14 12	相談・対応できる体制の整備	3.3	92	A	3.0	86	A	3.4	100	A	A	「保健だより」「SC(スクールカウンセラー)だより」の発行、SCによる講演会等、保健室を身近に感じてもらおう努めた。生徒の様子について担任を中心に情報交換に努めた。	保護者の評価が低いことから、保健室の役割を保護者にもっと知ってもらわなければならない。PTAの参加する各種会合での説明をより丁寧に行いたい。また各種発行物が保護者に届くようクラスルーム等ICTの活用を検討したい。		A		
	総務 2	危機管理							3.3	100	A	A	1,2学期の防災避難訓練と3学期の防災避難教育を計画通り実施できた。	今後の日本を取り巻く状況を考えて、原子力防災やミサイル対応の教育も計画する必要がある。		A		
保健 15	清掃活動や安全点検への取り組み							3.4	97	A	A	生徒・監督の先生方には丁寧に掃除をしていただいた。また、定期的に行っている安全点検についても、掃除監督に確認してもらった。校舎も古く、急には改善されない部分もあるが、事務部と相談しながら改善に努めた。	クラス削減による教員削減の影響か、一人の掃除監督に対する掃除区域が広く負担が大きい。また、トイレ掃除の負担も大きいことから、毎日掃除する場所かどうか確認したり、分担の見直しをしたり、例年通りでなく改善をしていきたい。		A			
学校満足度の向上		15	学校への満足度	3.5	93	A	3.4	93	A			A	コロナ禍においても、可能な限り教育活動を行うことができた。	さまざまなチャレンジの機会を提供に努める。	学校への満足度が高いことは、大変心強い。	A		

令和4年度 大社高等学校 グランドデザイン実現に関わる評価

	育みたい力	担当	番号	評価項目	評価	肯 %	評価	自己評価	改善策	学校関係者評価委員会での意見等	総合 評価
両科共通	主体性	教務	1	学力向上のため、授業や家庭学習に積極的に取り組んでいる	3.0	77	B	学習時間調査の結果をフィードバックすることで、学習への意識向上のための支援をした。	単元テストを軌道に乗せることで、継続して学習に取り組む意識を持たせる。	・育てたい力がイメージしやすく説明できるようにしてほしい。 ・学年が上がるにつれて評価が高くなっており、成果が表れていると思われる。 ・「人前で発表すること」が得意でない生徒が多いが、グループ活動などでの発表の機会をもっと確保するべき。小中学校では、機会を設けており、成果が出ている。	B
		生徒指導	2	学園祭や専門委員会などの生徒会活動に積極的に取り組んでいる	3.2	84	A	引き続きコロナ禍での学園祭となったが、生徒会執行部を中心に各クラスで協力し、主体的に実行できた。	より一層生徒の主体的な活動の場になるよう、教員による支援を行う。		A
			3	目標を設定し、確実に行動することができる	3.1	79	B	項目13と関連していると思う。短いスパンであれば頑	スモールステップがよいのではないか。		B
		教務	4	授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	2.9	72	B	現実的には、予習・復習や課題以外に学習を深める取り組みを行うのは困難なこともある。	学習したことを、総探の活動の中で生かすことのできるようなしくみを作る。		B
	挑戦し続ける力	生徒指導	5	部活動や課外活動に積極的に参加し、自分を高めようとしている	3.4	90	A	部活動加入率は92.3%で、コロナ禍でも多くの生徒が積極的に活動している。	結果だけでなく、人間形成の場として機能するよう働きかける。		A
		進路指導	6	進路目標実現のため、補習や模擬試験等にしっかり取り組んでいる	2.9	69	B	夏季補習の明確な実施目的について全体で共通認識を持つ。模試の実施についても同様。	・補習は模試分析を基にした苦手分野の克服なのか、上位対策なのか十分な協議を。 ・見直しを持った模試受験。見直しや成績の見方に時間確保。		B
	関わる力	生徒指導	7	自分を大切にし、まわりの人にも思いやりを持って接するよう努めている	3.6	97	A	人権教育LHRや、いじめ・学校生活アンケートを通して、人権意識を高めることができた。	担任、部顧問や学年会等との連携を深める。		A
			8	人前で自分の意見を発表することが得意である。	2.5	45	D	面接指導を通じて改善した生徒もいる。	授業内で発言機会を増やすこと、個別指導の機会を逃さないことが必要と考える。		D
	情報を活用する力	進路指導	9	進路目標を決定するため、資料の収集や担任等への相談をしている	2.6	56	C	オープンキャンパスや体験学習等、案内だけでなく振り返りをさせる。	本校の卒業生を人的資源として、実際の個別指導や一斉指導にさらに活用する。1. 2学期に進路学習HR活動を行い、長期休業中の課題として情報収集・活用機会を設ける。		C
		教育研究	10	図書館をよく利用している	1.9	23	D	図書館だよりや図書館の展示の工夫により、興味を持ってもらえたが、1. 2年生に足を運んでもらえていない。	授業での活用をきっかけに、生徒に図書館に来てもらえるようにしていく。		D
	協働する力		11	立場や役割を超えて協働する機会がある	2.9	71	B	コロナ禍で、協働する活動を十分にできなかった。	総合的な探究の時間や課外活動に積極的に参加させるよう努める。		B
			12	相手の意見を丁寧に聞くことができる	3.5	95	A	話を聞く姿勢は大変よい。	授業等でのグループワークを増やし、対話の場を増やす。		A
普通科	想像力		13	先の見通しを持って、計画的に行動できる	2.8	65	B	身近にモデルとなる例があると見通しが持ちやすい。	OB等を活用する。	B	
	創造力	教務	14	授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	2.8	65	B	タブレットの活用が十分にできなかった。	主体的に学習に取り組めるよう、授業改善やタブレットの活用に努める。	B	
			15	自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	3.5	95	A	思いやりを持って接することができた。	授業等でのグループワークを増やし、対話の場を増やす。	A	
	実践力		16	自分ができることやしたいことが増えた	3.2	84	A	総合的な探究の時間を充実させることができ、社会人講話を新たに実施できた。	キャリア教育スタッフを中心に、取り組みを充実させていく。	A	
教育研究		17	地域をよくするため、地域の問題に関わりたい	2.9	74	B	自分ごとの探究活動にしているため、地域との関わりを意識できていない。	自分ごとの探究活動にしているが、地域を活動場所として捉えさせたい。	B		
体育科	競技力	体育	13	授業や部活動を通して、専門種目の競技力が向上した	3.7	96	A	専門科目やスポーツ総合演習と関連づけながら、競技力向上に努めた。	さまざまな事柄を関連づけながら説明していく。指導者自身の研修を推進する。	A	
	指導力	体育	14	学校生活を通じて、表現力・統率力が身についた	3.4	91	A	話す機会や発表するを積極的に設けた。	一層わかりやすい説明について探究活動等を通して伝えていきたい。	A	
		体育	15	勉強したものを実際に応用している	3.1	77	B	基礎学力が不足している者もあり、学んだことと行動をつなげられない生徒もいる。	学習に対する姿勢や方法について、引き続きサポートを行っていきたい。	B	
	組織力		16	クラスの一人として、クラス活動に協力できた	3.5	91	A	他者への働きかけや配慮について機会をとらえながら指導を行った。まだまだ個人差は多い。	担任や部顧問、体育科教員との連携のもと、多くの教員でかかわってほしい。	A	
体育		17	部活動に積極的に参加して、チームの成績向上のために貢献した	3.5	91	A	新型コロナの影響を受けながらも前向きに活動に取り組むことができた。	生徒それぞれの活動が互いにより刺激となるような働きかけを行っていく。	A		